

令和6年度第2回豊臣石垣保存公開検討会議 議事要旨

1. 開催日時：令和7年3月12日（水）14:00～16:00

2. 開催場所：大阪城パークセンター 2階会議室

3. 出席者

メンバー：中村座長、伊藤委員、岸本委員、西形委員

大阪府教育庁文化財保護課：大澤副主査

一般財団法人大阪市文化財協会保存科学室：藤田室長

教育委員会事務局文化財保護課：佐藤主任、櫻田学芸員

経済戦略局大阪城天守閣：跡部研究主幹

経済戦略局観光課：松本部長、谷岡課長代理、植木係長、松本係員、森学芸員

4. 議事

1. 事業の進捗状況とこれまでの取り組み、徳川期遺構の復元・修復にかかる変更点

2. 今後の石垣管理について

（モニタリングデータ・豊臣期石垣公開施設（大阪城豊臣石垣館）石垣管理マニュアル）

【1. 事業の進捗状況】

事業の進捗状況と各年度における取り組み状況について説明した。

（伊藤委員）

・これまでの発掘調査や工事等の映像記録など、石垣館の完成に至るまでの取り組みを示すことは大切なことであり、何らかの形で公開してほしい。

【1. 徳川期遺構の復元・修復にかかる変更点】

徳川期遺構の復元・修復の方法について、現地状況をふまえた良好な展示環境とするための仕様変更について説明した。

（岸本委員）

・もともとの勾配はスムーズに通っておらず、そのままの高さで復元するとくぼんでいるところに水が溜まってしまうという認識で良いか。処理の仕方としては理解できる。

（西形委員）

・遺構の上に被せる場合には、分離するための不織布などを敷いてから復元石材を乗せて区別することも考えられる。

（中村座長）

・元の石材と復元石材が、100年後でもきちんと区別できるように明確にしておく必要がある。

【2. 今後の石垣管理について】

豊臣石垣のモニタリング状況、展示ホールの設備機器稼働状況、前回検討会議意見にかかる対応状況、開館後に運用する石垣管理マニュアルの主要なポイントについて説明した。

（伊藤委員）

- ・水位や水分、温湿度などというのは1年経過しないと評価しづらいところがある。
- ・二酸化炭素濃度の測定にあたっては、人が入っても問題が起こらない環境が保てているかどうかが重要。石垣の展示場所は窪地の状態なので、かなり滞留する可能性がある。法定の測定のみを行う場合はその測り方に留意が必要。換気効率を高めることも考えておくといよい。

（岸本委員）

- ・温湿度とか因果関係がはっきり分からないところについて、専門的に分析すれば一定原因が追求できることなのか。これからと昨年以前のデータも含めた専門的な分析をしてもらえるところへ頼んでも良いのではないか。

（西形委員）

- ・変位に関しては温湿度の影響を受ける程度の変化なのでほとんど変状はないと言える。
- ・石垣の根元高さがTP プラス24.6メートルであれば、石垣の背面で1メートルぐらい水位が上がっても湧水の大きな流出はないと思われる。石垣からの湧水によって館内に水がたまってきたら、いったん退避するのが良いのではないか。
- ・テロなども含めた対応マニュアルも検討しておくといよい。

（中村座長）

- ・水の問題や白化の問題へのとりくみは継続的に途切れのない検証をお願いしたい。

以上